

課題と対応状況等について

(資材業団体・建設業団体)

H26.3.19

平成 25 年度第 3 回建設資材対策東北地方連絡会宮城県分会

目 次

1	一般社団法人宮城県砕石協会	1
2	宮城県砂利工業組合	2
3	一般社団法人東北コンクリート製品協会	3
4	重仮設業協会	4

課題と対応状況について

課 題	対応状況等
骨材の増産と供給	<ol style="list-style-type: none"> 1. 土砂は、膨大と言われる需要に応じるため、採取場の開発と拡大が盛んである。 2. 砕石は、採取場の面積拡大と生産プラントの改善・改良、移動式プラントの増設、そして操業の延長により対応している。 3. 県内ブロック間の市場情報交換を密にして供給協力を行う。
輸送問題	<ol style="list-style-type: none"> 1. ダンプトラックによる道路汚損と交通渋滞等の問題が取り上げられており、定期的な主要道路清掃と適正な積載による荷こぼれ防止等に留意している。

課題と対応状況等について

課 題	対応状況等
陸砂利の採取地である岩沼市、亶理町、山元町の農地は、圃場整備のため転用許可が制限されるので、採取地の確保が困難になっている。	圃場整備計画外の農地での採取や、許可期間等の条件付で採取を続けているが、継続が危ぶまれる。また、1月より阿武隈川河川敷での採取を開始した。県南地区への供給増へ繋げたい。阿武隈川での採取には、新たな設備を設置しており採取期間も限られているため、相当の費用負担となっているので流水占用料等の減免について改めて検討願いたい。

課題と対応状況等について

課題	対応状況等
<p>①一般製品について、需要はかなり旺盛になってきているが、製造能力が追い付かず、逼迫する製品が発生する状況までは至っていない。現場ごとの進捗状況はまちまちで生産能力があってもストックヤードが不足しているケースが散見される。</p> <p>②特殊製品については、発注情報等に関して個別発注機関との情報交換が行われるようになり、調整が進展している。しかしながら、発注機関全体としての情報共有が充分とは言えない。</p> <p>③特殊製品の設計においては、その性能と価格を検討して決定されている。個別物件ごとには、供給能力が検討されているが、発注時、全体として供給不足となるケースが見られる。</p>	<p>①工事内容や規模によっては、現場付近の仮置き場の確保等をご検討いただきたい。</p> <p>②発注事務所間の情報の共有並びに調整をお願いしたい。</p> <p>③設計段階から、発注時期、供給体制等、全体的な管理、調整をお願いしたい。</p>

建設資材の需要見通しについて

(1) 鋼矢板の需要については昨年12月時点で8万8千トンであった。その後一部が出荷されているものの第四四半期で大口需要の工事が出件されつつあり、来年度は、9万トン近い需要があると見る。特に5月連休前後から集中的な需要が予測される。
 (2) 覆工板の需要については、松島地区などでは仮設材を陸側から入れることが出来ない工事があり、栈橋作成による需要がある。又今後橋梁工事が多く発注される予定で、ここでも多くの栈橋が必要となる。来年度以降国交省直轄工事とあわせ大量の覆工板需要がある。

課題と対応状況等について

課 題	対応状況等
(1) 鋼矢板需要が26年度5月頃から集中するのではないかと思われ、1工事で同じ型・長さで多くの数量が必要になる。 (2) 鋼矢板5L型については協会の保有量自体が少なく、大量に必要な工事については供給ひっ迫が予想される。 (3) 覆工板が全国的にひっ迫している。今後橋梁工事が多く出件される予定で、供給が懸念される。	(1) 現在名古屋以東で協会調整の上出荷しているが、もう少し西の方まで伸ばす必要が出てくる。 (2) 鋼矢板5Lの大量需要については4型に設計変更してもらう必要がある。 (3) 覆工板については県の復旧工事の中で転用してもらう事も必要か。又長期使用現場や海岸で使用する現場に付いては役所支給(新品)も考慮に入れてもらいたい。